

## 喜多地区林業研究グループ連絡協議会

所在地 > 愛媛県大洲市

設立 > 平成3年10月

会員 > 男156人 女35人      年齢 > 35歳～83歳 平均65歳

### 主なプロジェクト

- ◆ 関係団体等との連携による地域に根付いた活動の推進

### 1. 地域の概要

当協議会の活動地域は、愛媛県西部に位置する「大洲・喜多地域」で、大洲市・内子町が主な活動エリアです。

当地域の森林面積は、5万4,804haで総面積の75%を占めています。民有林面積は、5万301haで、うち人工林面積が3万1,680haを占め、そのうちスギが53%を占める1万7,017ha、ヒノキが43%の1万3,666haとなっています。

また当地域は、県内でも有数の乾シイタケの産地で、生産量は県下の75%を占める162tとなっており、それに伴いシイタケ原木用クヌギ林が5,357haと非常に多い地域です。齢級別森林面積では、8齢級以上が80%を占め、多くが収穫可能な森林となっています。

人口統計では65歳以上の人口が30%を超え、不在村面積も人工林面積の25%を占めるなど、急速に高齢化と放置森林が増加しており、林研会員も高齢で退会する会員が増えています。

このような厳しい情勢の中、当地域には川上から川下までの林業・木材産業の活性化を地域全体で考えていこうとする「肱川流域林業活性化センター」や「肱川地区林材業振興会議」があり、両団体は担い手や森林整備対策、地域材の流通や木質バイオマスなど、地域森林資源の有効活用について検討しています。

## 2. 協議会の概要と問題点

当協議会は、林研グループでは県下最大の組織で、11の単位林研(男性9団体、女性2団体)で構成されており、構成員は、191名(男性156名女性35名)に及んでいます。

当協議会では、単位林研から年会費をいただき、活動の経費に充て、活動を実施していますが、活動資金は非常に厳しい状況で、今後は川上から川下までの地域全体の関係者が連携し、継続的な活動が行える体制づくりが必要であると考えます。

## 3. 活動支援体制

当地域には、活発な活動を展開している2つの団体、2つの森林組合、そして大洲市・内子町・県の出先機関(大洲森林林業振興班)の行政機関があります。

まず2つの団体である「肱川流域林業活性化センター」と「肱川地区林材業振興会議」は、川上から川下までの関係者で構成されており、当協議会の活動に対しご理解をいただくため、両団体へ活動内容や必要性を説明しています。これにより、林業担い手育成や地域の活性化につながる活動に対し助成をしていただける体制が整いつつあり、今後とも目に見える活動を実施して行く必要があります。

また森林組合においても、活動に対する助成や研修地の提供、機械や作業員の手配など、協力をいただいています。また組合職員が出身地域にある単位林研の事務局を担当することにより、会員と森林組合が緊密に関わりながら活動を進めています。

さらに市町については、活動する際の各種の調整をいただき、また県の出先機関の林業普及指導員から技術指導を受けるなど、関係行政・団体が連携して地域の担い手確保・育成に取り組んでいく体制が構築されています。

## 4. 主な活動内容

### (1) 大洲市女性林業研究グループの設立

当協議会は、県下最大の林研グループであり 11 単位林研で構成されています。

しかし、次のような問題がありました。

- 林研の会員の高齢化 → 徐々に退会し会員の減少
- 大洲市に女性会員が少ない
- 乾シイタケの産地であり、シイタケの普及・PRには女性の声が必要

このことから、「大洲市に女性林研を」を合言葉に、結成に向けた取り組みを行いました。

活動としては、次のとおり働きかけを行いました。

- 男性会員の奥様や林業関係者に封書にて募集
- 林業施業に関する研修会の開催
- 大洲市の広報誌に掲載
- 県の林業普及指導員と連携

特に募集では、チラシを作成し林研会員の奥様あて 160 通を送付しました。そして反応があった方に直接電話をし説明等を行った結果、13 名から加入申込みがあり、平成 26 年 2 月 26 日設立総会を開催し、「大洲市女性林業研究グループ」が誕生しました。現在も継続して加入を募っており、平



きのこ料理全国大会競技の様

成 27 年 7 月 1 日現在で会員数が 5 名増え 18 名となり、女性林研では県下一大



林野庁長官賞受賞 上野マリエさん

きいグループとなっています。活動は、視察研修、シイタケ料理教室、シイタケ植菌研修、さらには枝打ち研修等を行うなど知識や交流を深めています。

特に、地域の特産物である乾シイタケを PR し消費拡大に努めようとグループ内でシイタケ料理を出し合い検討し料理コンテストに出場しました。その結果「じゃこきのこ」料理が、第 28

回きのご料理コンクール全国大会（主催：日本特用林産振興会）でみごと最優秀である林野庁長官賞を受賞しました。

今回の受賞により、地元新聞や広報に掲載、また地元ケーブルテレビにも取り上げられたことから公民館や中学校でのシイタケ料理教室やイベントでの試食・販売依頼、「シイタケ食のモデル地域育成事業（林野庁予算）」で新商品として検討されるなど反響は大きく、市内の女性からも活動内容等についての問い合わせなどが寄せられるなど、会員の増加に期待しているところです。

## (2) 森林・林業教室の開催



木材加工流通施設見学（小田小学校児童）

地域の林業後継者を育成するとともに、森林・林業の意義や重要性を理解させるために森林・林業教室を随時開催しています。

県立大洲農業高校では、最も林業の担い手に近い生徒たちに、地元単位林研等の協力を得て、チェーンソーの操作体験やコンパスによる周囲測量実習など実践的な学習を実施しています。

小学校児童に対しては、地元の木材加工施設やペレット製造施設の見学、林研会員によるシイタケ植菌や料理教室を開催しています。

まずは森や木材・植物等を見て触って「好きになる」、「楽しむ」、「興味を持つ」ことをモットーに行いました。

その結果、活動が認められ平成25年度四国山の日賞（森林環境教育の部門）を受賞しました。将来一人でも多くの子供たちが林業に携わってくれることを願っています。

## (3) 喜多地区林研記念市の開催

当地域には、2つの木材市場があり、この市場の記念市に合わせて林研コーナーを設け日頃林研会員が研鑽を積み研究を重ねてきた原木の品評会を行



記念市の模様（県森連大洲原木市場）

い、優秀なものには賞状と記念品を贈っています。これによりお互い切磋琢磨し優良材の生産に励みをつけています。

#### (4) 林業施業技術の習得等



森林作業道作設検討会

林業技術の習得を図ると同時に、知識の向上と研究を重ねるため、森林作業道作設検討会や先進地視察、高性能林業機械を使った搬出間伐講習会、さらには検尺・造材方法など毎年技術研修を実施しています。

#### 4. 今後の取り組み

今後、当地域にある肱川流域林業活性化センターや肱川地区林材業振興会議、市町、森林組合、県の林業普及指導員とさらに連携を密にし、

##### ① 里山林整備と里山保全活動

新たな試みとしてカヤの研究と生産に取り組む

##### ② 森林・林業教育の推進

「好きになる」「楽しむ」をモットーに！

##### ③ 積極的な施業技術の習得

小面積皆伐・再造林による循環林施業の実証・研修

##### ④ 単位林研の活動に対する協力支援

地域で活躍し、地元の中核的な林業の担い手となっている林研会員を支援

##### ⑤ 収益につながる活動についての研究・実践

会員の経営意欲の向上と継続的な活動資金の確保

など、活動を強化し、美しい環境と林業技術を後世に継承するため、知識を習得するだけでなく実践が伴うよう「知行合一」の精神で取り組んでいきたいと思っています。